

## 産業廃棄物処理計画書

2025年 6月 日

(あて先) 姫路市長

提出者

住所

姫路市千代田町840番地

氏名(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

三菱電機モビリティ株式会社

姫路事業所 所長 田村 修一

電話番号

079-298-7031

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

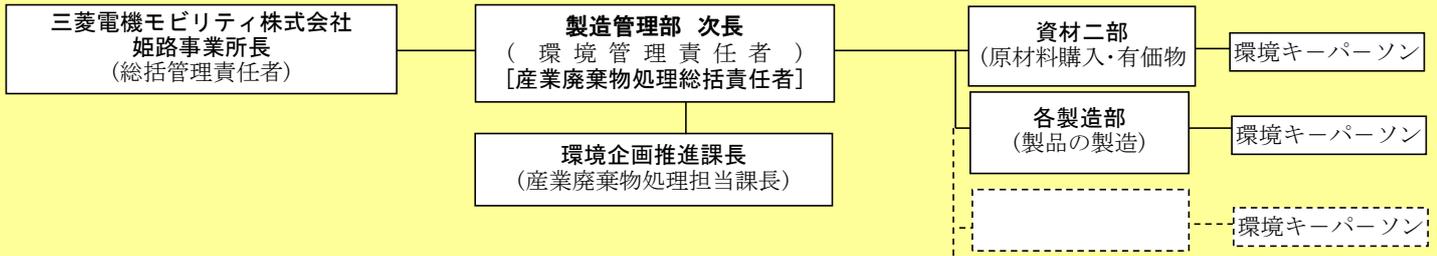
事業場の名称	三菱電機モビリティ株式会社 姫路事業所 広畑工場
事業場の所在地	姫路市広畑区富士町1番40
計画期間	2025年4月1日から2026年3月31日まで

## 当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	その他の産業用電気機械器具製造業(2929)
② 事業の規模	— (姫路事業所全体での2024年度実績 4,220億円)
③ 従業員数	2,175人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度( 2024 年度)実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
	排出量	694 t	872 t	230 t	68 t	12.6 t
	(これまでに実施した取組) ①. 広畑工場の軟質系廃プラスチックの分別強化 ②. 廃油(洗浄液)の排出抑制(発生部門と協議) ③. 汚泥の排出抑制(発生部門と協議) ④. 木くずの有価物化検討					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
	排出量	679 t	853 t	225 t	67 t	12.3 t
	(今後実施する予定の取組) ①. 広畑工場の軟質系廃プラスチックの分別強化 ②. 廃油(洗浄液)の排出抑制(発生部門と協議) ③. 汚泥の排出抑制(発生部門と協議) ④. 木くずの有価物化検討 ⑤. サーキュラーエコノミーを踏まえ、廃プラスチック類(プラスチックトレイ)の資源循環を推進					

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <分別している産業廃棄物の種類> 汚泥、廃油、廃プラスチック類(雑芥廃プラスチック類、混合廃プラスチック類)、木くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(ガラスくず、蛍光灯、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類の混合物)、金属くず
	<分別に関する取組> 発生する廃棄物の分別を写真で見える化し、それぞれの廃棄物をアルファベットや数値で別名を付与し、廃棄場所にもこのアルファベットや数値を掲示することで分別と誤廃棄防止を徹底した改善を維持継続。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <分別予定> 上記 ①現状 に示す<分別している産業廃棄物の種類>からの変更予定なし。 <分別に関する取組> ・上記(現状)の取組を継続実施する。 ・サーキュラーエコノミーを踏まえ、廃プラスチック類(プラスチックトレイ)の資源循環を推進する。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項						
①現状	【前年度( 2024 年度)実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 産業廃棄物の再生利用は実施していない。					
②計画	【目 標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 産業廃棄物の再生利用を実施する計画はない。					
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項						
①現状	【前年度( 2024 年度)実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) 産業廃棄物の中間処理は実施していない。						
②計画	【目 標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組) 産業廃棄物の中間処理を実施する計画はない。						

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度( 2024 年度)実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) 産業廃棄物の埋立処分 又は 海洋投入処分は実施していない。						
②計画	【目 標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組) 産業廃棄物の埋立処分 又は 海洋投入処分を実施する計画はない。						

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度( 2024 年度)実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
	全処理委託量	694 t	872 t	230 t	68 t	12.6 t
	優良認定処理業者への処理委託量	694 t	872 t	230 t	68 t	12.6 t
	再生利用者への処理委託量	694 t	872 t	207 t	68 t	12.6 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) ①. 全ての収集運搬・中間処理業者の現地確認を実施。 更に、代表的な最終処分業者の現地確認も実施。 ②. 優良認定業者(収集運搬業者、中間処理業者)との処理委託契約率100%を達成。 ③. 定常的に排出される産業廃棄物に関して有効利用率(マテリアルリサイクル、サーマルリサイクル)100%を達成。						

		【目標】					
		産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
②計画	全処理委託量	679 t	853 t	225 t	67 t	12.3 t	
	優良認定処理業者への処理委託量	679 t	853 t	225 t	67 t	12.3 t	
	再生利用業者への処理委託量	679 t	853 t	225 t	67 t	12.3 t	
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	(今後実施する予定の取組) ①. これまでに実施した取組を継続実施する。 ②. サーキュラーエコノミーを踏まえ、廃樹脂パレットの循環使用を推進する。 ③. サーキュラーエコノミーを踏まえ、廃プラスチック類(プラスチックトレイ)の資源循環を推進する。						
※事務処理欄							

(第6面)  
産業廃棄物の一連の処理の工程

主な発生源	産業廃棄物の種類	処理工程	
金属被膜処理工程	汚泥 処理カス	混合・焼却	セメント原料化
各種製造工程	汚泥 フィルター, 砥石等	混合・焼却	セメント原料化
	汚泥 シリコン, エポキシ等	焼却	造粒固化
排水処理工程	汚泥 脱水汚泥	脱水, 混練・乾燥, 油水分離	エマルジョン燃料化 セメント原料化
	汚泥 フィルター, 砥石等	混合・焼却	セメント原料化
各種製造工程	廃油 油混じりの廃液	油水分離・混合・焼却	セメント原料化
	廃油 切削・研磨油水等	油水分離	エマルジョン燃料化 セメント原料化
	廃油 研磨油水等	混合	補助燃料化
各種製造工程・物流	廃プラスチック類 雑材プラスチック類※1	破碎 焼成・焼却	セメント原料化
各種製造工程	廃プラスチック類 混合プラスチック類※2	破碎	埋立(安定型)
開発・実験	廃プラスチック類※4 保温材	焼却・溶融	路盤材, 鉄鋼製品等の原料化
開発・実験	廃プラスチック類※5 コンクリート片等	破碎	埋立(安定型) 路盤材化
	各種製造工程・物流	木くず パレット・梱包材等	破碎
各種製造工程, 開発・実験	汚泥※6 乾電池	焼却・溶融	路盤材, 鉄鋼製品等の原料化
	金属くず 設備など	焼却・溶融	路盤材, 鉄鋼製品等の原料化
事業所全般	ガラスくず※7 ガラスくず	焼却	造粒固化
	ガラスくず※7 蛍光灯・水銀灯	破碎及び水銀回収による再資源化	埋立(管理型)
開発・実験	ガラスくず※8 温度計	焼却・溶融	路盤材, 鉄鋼製品等の原料化 埋立(管理型)

- ※1:軟質プラスチック系  
 ※2:硬質プラスチック系  
 ※3:廃プラスチック類と金属くずの混合物  
 ※4:廃プラスチック類と石綿の混合物(石綿含有産業廃棄物)  
 ※5:廃プラスチック類, ガラスくず, コンクリートくず及び陶磁器くず及びびがれき類の混合物  
 ※6:金属くずと汚泥の混合物  
 ※7:ガラスくず, コンクリートくず及び陶磁器くず  
 ※8:金属くず, ガラスくず, コンクリートくず及び陶磁器くず, 廃プラスチック類の混合物